

Taisei Kougyou Report

2022. 05. 09

3月に一般社団法人 日本在外企業協会の「SDGs フォーラム 2022」にパネリストとして招いていただき、その様子が「月刊グローバル経営 5月号」に掲載されました。日本在外企業協会のHP <https://joea.or.jp/>

特集 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

だからこそ SDGs

—再生への羅針盤に

SDGsは国連加盟193カ国により2015年に採択。2016年から2030年までの15年間で達成することを約束し合った「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」だ。17の目標達成には、国や国際機関ばかりでなく、企業の主体的な参加が求められる。とはいえ、めまぐるしく変化する国際情勢と経営環境。だからこそ、SDGsを羅針盤に。

SDGsを推進する上での課題
—日外協アンケート調査(2022年3月)から

社員の意識

- 従業員向け周知啓発活動の強化。
- SDGsの浸透および個人の業務への落とし込み。

目標・指標の設定

- 定量的な指標の設定、インパクトなど評価方法、リソースの不足。
- SDGsの社会的効果の数値化、KPI(重要達成度指標)の設定。

その他

- 収益事業と直結する関連サービスの構築。
- 二酸化炭素排出量の少ない製品の開発と顧客の理解。



特集 だからこそ SDGs —再生への羅針盤に

日外協 SDGs フォーラム 2022 パネリスト 3

安全な水とトイレを世界中に

独自の技術で環境問題の解決、人々の暮らしの改善に取り組み。

大成工業株式会社
取締役 TSS 事業部長 松本安弘



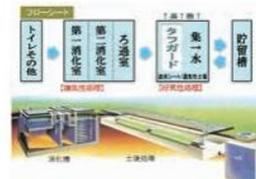
(まづもと、やすひろ) 大成工業のオリジナル商品であるTSS(トイレ)の事業部長として、生産・供給、また工場から現場まで生産への想いを赴かす。ソロモン諸島やインドなど海外事業も思い、現地におき施工指導を行っている。鳥取県米子市在住。こつこつ SDGs 推進中。

無放流の汚水処理施設

鳥取県の米子市に本社を置く当社は、浄化槽設置・管理・下水道接続、水道・水回り設備などを行っている。

当社が開発したTSS(Taisei Soil System)汚水処理施設は、トイレから出た汚水や生活雑排水の敷地内処理を可能にする無放流の汚水処理施設。90%以上という除去能力を誇る。

無放流の汚水処理施設のフローシート



TSS汚水処理施設の長所として挙げられるのは、下水道のない場所や、浄化槽を設置するにも放流する公共水域がない場所などに設置可能であること。電気が使用できない、または河川敷公園のような電気を使用したくない場所にも設置できる。また、キャンプ場のようにオフシーズンがあっても処理能力が落ちず、くみ取り回数を減らすことも可能である。

一方、短所としては、設計時に使用人数・計画処理水量を十分に把握しなければならないことと、処理装置自体が大きく設置には広い敷地が必要になることが挙げられる。

国や地域によって資材や工法を模索

主な設置実績を紹介したい。

国内

これまでに全国500カ所以上に設置実績がある。その特徴から用途は、山岳トイレ、オートキャンプ場、自然公園や世界遺産の公衆トイレ、高速道路やダム管理棟など、排水を出したくない場所、維持管理が困難な場所、電気を使いたくない場所と多岐にわたる。また工場やコミュニティセンターを誘致しながらも、その排水に対する周辺住民の理解が得られにくい場合などにも対応している。

ソロモン諸島

環境省の「2013年度アジア水環境改善モデル事業」に選ばれ、ソロモン諸島のガダルカナル島ホニアラ市にあるセント・ニコラス校とマタニコ川沿いの公衆トイレの2カ所に設置。セント・ニコラス校では、現地の施工業者と協働し工事を進めた。マタニコサイト公衆トイレでは維持管理のため使用料を徴収。運営は黒字で

10 グローバル経営 2022年5月号

